

# 緑の相談所だより

-第29号-

{8, 9月号 1994. 7. 31発行 編集:旭川市緑の相談所}

## 8, 9月の講習会のお知らせ

### 秋にむけての鉢物管理

内容 低温, 短日処理などほか  
シャコバサボテンほか

日時 8月28日(日) 午後1~3時

講師 旭川市緑の相談所相談員  
村田正一

定員 50名

### 旭川のユリの育て方, 咲かせ方

内容 花の種類, 土づくり, 施肥

日時 9月11日(日) 午後1~3時

講師 旭川市園芸センター所長  
佐野元雄氏

定員 50名

### 庭木類秋の剪定と薬剤による防除

内容 秋に行なう剪定と樹種  
秋の薬剤による防除方法

日時 9月25日(日) 午後1~3時

講師 旭川市緑の相談所相談員  
小島博昭

定員 60名

いずれも  
参加料は無料

お申し込み  
お問い合わせ

65-5553

多数のご参加をお待ち  
しております。

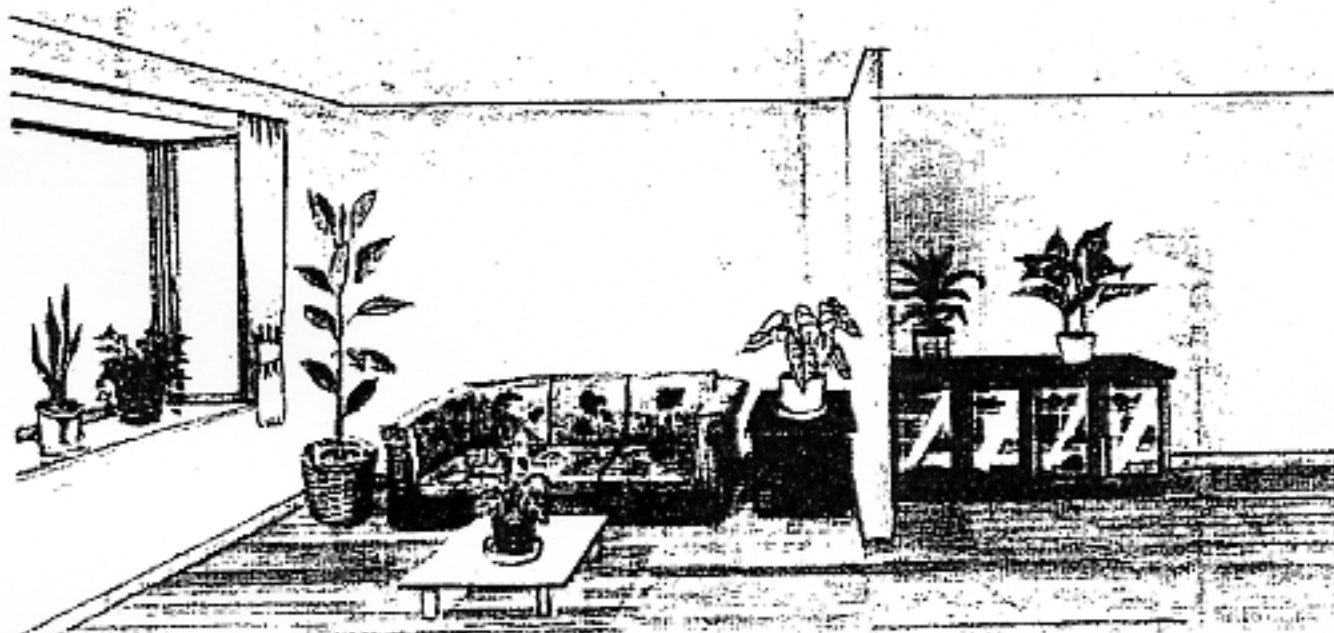
## 観葉植物の置き場所

### 窓ぎわの光が当たる場所

アイビー、アレカヤシ、ガジュマル、  
ゴムノキ、クロトン、サンセベリア、  
ストレリチア、ドラセナ、パキラ、  
フェニックス、ベンジャミン、  
ユッカなど。

### 窓から奥まった場所

アスパラガス、オリヅルラン、  
カラジューム、グリーンネックレス、  
コーヒーの木、ゴールド  
クレスト、スパティフィラム、  
シェフレラ、ポトスなど。



## かぼちゃ

### かぼちゃの今、昔

かぼちゃは別名南瓜（ナンキン）ともいいますが、原産地は南アメリカ大陸でコロンブスが新大陸から馬鈴薯やたばことともに持ち帰ったものです。

それが地球を一回りして安土、桃山時代にはすでに日本にも伝わってきました。この時代に伝わったものは日本かぼちゃと呼ばれ、明治以降栽培の主流となった西洋かぼちゃと区別されています。

ところで日本かぼちゃは最近ではお目にかかる機会が少なく、武者小路実篤の絵で見るくらいになってしまいました。肩が張って、表面に溝がある菊座の日本かぼちゃは、今はやりのえびすかぼちゃから、少々形態がちがって見えます。

### あまり光が入らない場所

アジアンタム、アンズリウム、エスキナンツス、シンゴニウム、ディフェンバキア、ベベロニア、モンステラなど。

—主編の友社「園芸ガイド」8月号より—

—北海道同業連合会「北海道の野菜づくり全書」より—

夏の花壇は花が満開です。中旬を過ぎると涼しさを感ずるようになり、日照時間も次第に短くなり、リンドウ、キキョウ、シュウメイギクなど秋の花が咲き始めます。

#### ■病気、害虫の防除

7月に引き続き病気や害虫の発生が目立ちます。なるべく初期のうちに薬剤をかけて防ぎましょう。病気には殺菌剤、害虫には殺虫剤を用います。

#### ■シャクヤク、ポタンなど

葉に白いカビ状のウドンコ病がでます。ダコニール、ベンレート、ミラネシン、トップジンなどの殺菌剤を葉の裏表に4～5日おきに繰り返してかけてください。

シャクヤク、ポタンの移植、株分けは8月中旬から9月上旬にかけて行います。他の時期にすると弱って何年も花が咲かなくなります。

#### ■花壇、草花など

健康に育てるために除草、花がらや枯れ葉の摘み取り、伸びすぎた茎、つるなどの切りもどしをして風通しや日当たりを良くしてやりましょう。

ダリヤはこれからどんどん咲きつづけますが、脇芽や脇つぼみを小さいうちに摘み取って、一枝に一花を咲かせるようにしましょう。

夏越ししたシクラメンは涼しくなると元気を回復し、球根の頭にちいさな芽が出てきます。葉が無くなった株は根土を落として新しい用土で植え替えます。葉がついて元気のいい株は根土を落とさずに一回り大きな鉢に入替えます。用土は赤玉土と腐葉土を半々にまぜたものを用います。

#### ■イチゴの苗植え

8月中下旬のうちにランナー（つる）についた子株を切り取って植えつけます。畑はあらかじめ堆肥、元肥をまぜて起こしておきましょう。

秋を迎えて涼しくなるとコスモスやサルビヤなどの色が鮮やかになります。中旬になると急に気温の下がる日もありますから、戸外に出してある鉢物で、低温に弱いものは注意してください。

#### ■短日性植物

シャコバサボテン、カランコエ、ポインセチヤなどは明るい時間が短くなり、暗い時間が長くなると花芽を付ける性質があります。

夜、電灯の明かりに当たっていると花芽ができません。夕方5時ころから翌朝8時ころまでダンボール箱をかぶせて暗くしてやります。花芽が見えるようになれば中止してもいいです。

シャコバサボテンなら15度前後のやや低温で乾き気味にして2～3週間、ポインセチヤは温かい所で1月半くらいかかります。途中で止めないでください。

#### ■秋植え球根

クロッカス、ヒアシンス、アリウム、チューリップ、スイセン、ユリなどの秋植え球根の植えつけは中旬から下旬におこないます。チューリップは10月にはいってもよろしいです。

植え付けの深さは球根の高さの3倍くらいにします。元肥を土によくまぜておきましょう。

#### ■低温に合わせるもの

花をつけるクンシランは、秋から冬の始めにかけて10度前後の温度に1か月くらいあわせておくと、花茎が伸びるようになります。霜に当たないように注意します。

夏越ししたアザレヤ、ツバキは霜に1～2回当たるくらい低温に十分あわせませす。その刺激で蕾は休眠から覚めるのです。

#### ■入室前に消毒を

鉢物を入室する前に、殺菌剤（ダコニールなど）と殺虫剤（アクテリックなど）をまぜて、4～5日間隔で2～3回かけておきましょう。

## ◆夏の剪定◆

夏は生育の最盛期です。このような時期での剪定は、葉、枝が部分的にでも枯れはじめて姿、形をわるくしたり、無理な剪定をした結果枯死してしまうことが結構見受けられます。

真夏に剪定をおこなう場合は、夏の生育の一時休止期を狙っておこなうようにします。

その時期はその年の気象条件や、木の生育状態によってもことなりますが、平均的には8月15日前後の一週間ぐらいが一時休止期の時期で、状態としては木の芽の生育が一時的に止まって固くなる時期です。

このような時期でしかも日中をさけて朝早くか夕方の方の剪定作業を心がけることが大切ですし、特に強度の枝抜き剪定をさけ、剪定によって木が弱ることのないよう心がけることが大切です。

## ◆コガネムシの防除◆

旭川で多く見られるのがナガチャコガネで年一世代のもので幼虫時は土中で越冬し、6月下旬から7月上旬頃にかけて成虫となって出現し、羽化後まもなく土中で産卵します。

卵の期間は約3週間。その後ふ化して幼虫（根切り虫）となり土中で生活し、8月～10月中旬頃までマツ類、イチイ、サクラ類などの根部を食害して成長成熟し11月上旬頃より地中により深く潜入して越冬します。

ナガチャコガネの場合このような生活を毎年くり返しますので、これからの防除は幼虫期である8月からが適期で土中の比較的浅い所にいるうちに防除するようにします。

防除方法としては8月～9月にスミチオン乳剤、カルホス乳剤、スプラサイド乳剤、ディブテレックス乳剤などを規定の倍率で薄め、ジョウロで土中に灌注します。灌注する量は1㎡当たり3～5～ℓ程度です。

ナガチャコガネ

幼虫



成虫

